地域の人材を地域に活かす。

「パソコン教室」「介護予防教室」

～燕沢コミュニティ・センター～ 事例13

地域の人材を活かし地域に役立つ教室を開催

パソコン教室に介護予防教室。喜ばれる講座を開講。

「何かを始めるには人材が必要です。地域活動においても地域の人材をうまく活用していくことが求められるのではないでしょうか」と語る燕沢コミュニティ・センター運営委員会委員長の大西さん。

現在、コミュニティ・センターではパソコン教室と介護予防教室を開講していますが、どちらも地域の方が講師になっています。

「パソコン教室は40年近くコンピューター会社で働いていた自らのノウハウをもとにしたものです。最初は、パソコンの修理を頼まれたんですけど、そのうち、操作方法を教え始めパソコン教室にまで発展しました。いろんな人に喜んでいただけてこちらもうれしいですね。」

教えられる人を増やす。教室から広がる交流の輪。

こうして始まったパソコン教室。現在は、基礎編から表計算・インターネットなどの応用編まで年間50回ほどの講座を開講しています。「高齢者が中心ですが、皆さんすごく熱心。頭の体操になると喜ばれる方もいます。」

いろいろな場所でパソコン教室が開講されていますが、高齢者には敷居が高くなかなか出向きにくいもの。「その点コミュニティ・センターのパソコン教室なら、近いし、周りは知り合いばかりで、分からないことも質問しやすくていいですね、という声が聞かれます。」

初めは高齢者向けの教室でしたが、若い方からも参加したいという声があり、今は年齢に関係なく参加してもらっています。

「すべての人を自分ひとりで教えるというのは無理。受講者の中から教えられる人を育てることを目標にしています。」

教室は4年目を迎え、他の人を教えることのできる人も増えています。自発的に近くの席で教え合うという風景も見られるようになったと言います。

コミュニティ・センターを主体的に行う地域活動の中心に

新たな地域活動の一貫として、介護予防運動を今年からスタート。

「仙台市が策定したコミュニティビジョンを見て、コミュニティ・センターとして地域活動を主体的に行っていかなければならないと感じたんです。」

大西さんが参加した、区役所主催の介護予防サポーターの研修会で知り合った地域の方と一緒に、今年から介護予防教室を立ち上げることにしました。「お年寄りに怪我をされても大変。お年寄りの考え方、体力的なことなど基本的なことを分かっている方に教えてもらっています。」

91才の方も元気に参加される人気の介護予防教室。いすに座ったままのストレッチや、頭に刺激を与えるように指を動かすという誰でも気軽に参加できる内容になっています。「運動してみると気持ちがいい」と参加者にも喜んでいただいているようです。

地域の人材と出会うタイミング。コミュニケーションを増やすことが大切。

「地域の活性化において中心的な役割を果たす。それがコミュニティ・センターの使命だと思っています。ただ貸し出しをするだけでなく、地域活性化に重点をおいた取り組みをしていきたいですね。」

そのためにも地域活動の担い手となる人材を発掘することが大切です。しかし、地域で人材がいても、なかなか周りは気付かないことが多く、本人自身も言い出す機会がないというのが現状です。燕沢コミュニティ・センターで現在のように活発に活動が行われているのは、地域の人材と出会う時期とタイミングが合ったからだそうです。

「いろいろな人とコミュニケーションをとり、出会うチャンスを増やすことで、新しい人材と出会うことができます。もっともっと地域の中に出会いの場を増やしていくことが大切でしょうね。」

地域のふれあいを育むコミュニティ活動から新しい時代を担う人材が発掘できるのかも知れません。

こんな工夫もしています！

地域の人材を活かしたサロン活動を計画

燕沢コミュニティ・センターでは、地域の様々な人材を活かして、いろいろなことを学んだり、楽しんだりするサロン活動をしていきたいと考えています。このような取り組みから地域の交流を一層深めていきたいと考えています。

事例のまとめ

- 地域の人材を活かしたパソコン教室や介護予防教室を開催し、コミュニティ・センターを地域交流の場として活用しています。

地域課題を主体的に話し合う。

「地域住民主体の話し合い」

～泉ビレジ館地区～ 事例14

ワークショップ（話し合い）を通して町内の課題解決を図る

**地域の課題を共有する場として
ワークショップを開催。**

「平成15年に館地区の10周年誌を作成した際に、地域でパネルディスカッションを行いましたが、それをさらに進めようということでワークショップが始まりました」と語る館コミュニティ推進協議会会長の日比さん。

「地域には様々な課題があります。これらを共有し、解決していく場が必要だと考えています。その具体的な形として連合町内会主体でワークショップを実践しています。」

平成17年より地域すべての団体が参加したワークショップを開催。「安全安心の地域づくり」や防災や環境などのテーマで毎年ワークショップを行っています。

**若い力も巻き込んで
地域の課題にひとつずつ対応。**

安全安心の面や街並み形成に関してアドバイスをいただこうということで大学との連携が始まりました。「防犯をテーマとしたワークショップで学生に参加していただきました。学生さんに昼間と夜間の館地区を見てもらい、危険な箇所等についてどう情報を発信していくか学生の視点で意見をいただきました。」

話し合いの結果を受けて、不審者情報等いろいろな情報を小学校・児童館→連合町内会長→各町内会長という流れでメール配信できる仕組みを構築しています。必要に応じて町内の掲示板へ掲示するなどの対応も行っています。

「今年は館中学校と連合町内会、地域の諸団体、大学のボランティアサークル等が中学校の体育館に集まり防災のワークショップを行いました。館地区から周囲につながる３本の道にはすべて橋がかかっており、それが落ちれば孤立します。中学生を巻き込んだのは、外部からの助けを期待できないため地域内にいる中学生を含め地域一丸となることが必要だからです。」

自分たちの手で町の歴史・伝統・文化を創る

**町内会同士の交流を深め、
横のつながりを強くする。**

館地区では地域全体の活性化を図るために、各町内会間の交流を大切にしています。ワークショップを通じて町内会同士に深い交流が生まれています。各町内会の行事にそれぞれ参加しあっているのもその一貫です。

「様々な取り組みに関する情報も交換しています。例えば、ごみ有料化に関して、ポスターを作成しごみ集積所に掲示しました。その中で、1丁目町内会のポスターが良かったので、他の町内会が参考にしました。」

イベントや祭りなどを通して、新興住宅団地に町の歴史を作っていきたい。

「館地区でも、大学入学・就職などで若い人が外に出て行ってしまうという問題があります。出て行った若い人が戻って来てくれるように、魅力ある町にしていこうと考えています。」

年に1回位は戻ってきて欲しいということで夏祭りは盛大に行っています。今年で22回目で、毎年6,000～7,000人の方が中央公園に集まります。

他に、スプリングコンサートなども定期的に開催しています。また、コミュニティ・センターでは押し花・絵画・踊りなど様々な趣味のサークル、地域の学校や福祉施設の作品の展示会や発表会なども活発に行われ、地域全体を盛り上げています。

「歴史がない町なので、地域のイベントなどを通して、町の歴史や伝統や文化を育んでいきたいという想いがあります。」

「一緒に自分たちの文化を創っていく。この取り組みを続けることで住む人の町への愛着は深まっていくはずです。」

こんな工夫もしています！

町独自のホームページで魅力を発信

ワークショップや各種イベントの様子、館の四季折々の様子を紹介し、魅力あふれる町の情報を発信しています。閲覧も多く、町民の情報共有に役立つだけでなく、ホームページを見て、館地区に惹かれ引越してこられた方もいるようです。
http://www.yakata-cc.odense.jp/index.php

事例のまとめ

- 地域住民主体のワークショップを開催し、大学や地域の学校と連携して若い力を活用しながら地域課題の共有を図っています。

町のシンボルを交流の場所に。

「将監沼の自然とふれあいを育む会」

～将監地区～ 事例15

昔楽しんだ桜祭りを復活 町内挙げて将監沼の風景を取り戻す

各町内会が連携して公園の整備を。

「将監町内会自治会連絡協議会（以降、連協）が結成30周年の記念行事の一貫として桜まつりを開催しました。延べ5,000人の方が参加し大盛況。『みんなこういった行事を待っていたんだ』『また何かやりたいね』という声があがり、桜まつりを毎年開催できるように公園をきれいに整備をしようという話になったんです」と語る連協副会長でもあり、「将監沼の自然とふれあいを育む会（以降、育む会）」事務局長でもある高橋さん。

もともと一つの町内会が里山を整備する活動をしていた団体と一緒に周辺を整備していましたが、地域のコミュニケーションを深めたいという想いから、みんなで一緒にやっていこうということで連協を母体とした育む会が立ち上がりました。

荒れ放題だった沼が、新しい地域の名所として復活。

「私たちもそこに沼があることを忘れていたんです。道路から沼が見えず、若い方たちは沼があることを知らないくらい荒れた状態でした。」

地域の活性化と公園再生のため、育む会会員を町内の回覧で募集。多くの方が集まりましたが、公園は8.4hほどの広さで、整備作業も大変。下刈りを中心に、除草、清掃などを毎月行っていますが、それでも足りないので、育む会の有志の方が土日などに活動をしています。間伐は当初、里山を整備する活動をしている団体の協力で行っていましたが、地域に経験者がいたことや作業を習得された方が出てきたことにより、現在は育む会でも行えるようになっています。

「以前は道路から沼が見えませんでしたが、3年かかってやっと見える状態になりました。昔見ていた沼が現れた時は感動しましたね。」最近将監に住み始めた方は「ここに沼があったんですね」と驚いています。また、昔の将監沼を知っている方も「子どもの頃遊んだんだよね」と喜んでいます。

地域の宝を伝えながら この活動を 若い世代につないでいく

小中学校の総合学習に利用できる場として整備。

「育む会では子育て支援を事業の柱の一つとし、子どもたちとの関わりを大切にしていきたいと思っています。将監沼に巣箱を設置したり、子どもたちの総合学習などでも利用してもらったりしています。」巣箱の数も増え、小鳥が入っているのを見かけるようになりました。以前、小学校では将監沼を危険区域としていましたが、今では子どもたちが将監沼に関心を持つようになって、総合学習の教材にする学校も出てきています。

また育む会では、親子で一緒にツリークライミングなどの遊びを行える「将監プレイパーク」も実施しています。

「桜の季節には、小学生たちが先生と一緒に散策している姿が見られ、感慨もひとしお。児童館や老人クラブの方たちもここで活動することが増えています。」

育む会の方々の苦労が実り、多くの世代から愛される場所になっているようです。

若い世代とともに、町の宝を守っていく。

現在、育む会は会員、賛助会員合わせて約1,200人。また、防犯協会・PTA・交通安全協会・商店・市民センターなど地域の各種団体も参加して、地域が一体となって取り組みを進めています。さらに、将監だけでなく、他の地域からも応援があります。

「これからはもっともっと若い世代に活動をつなげていきたい。それが課題ですね。」若い世代を巻き込む取り組みとして、若い方が多い地区の町内の会長さんに、育む会の副会長になってもらったり、プレイパークに「おやじの会」の方を誘ってもらうよう小学校にお願いしたりしています。

「ここまで活動が続いているのは、沼が将監の宝・泉の宝で、子どもたちにその宝を残していきたいという想いからです。沼を通じて将監の活性化ということを若い人たちに広めていきたい。こういった育む会の取り組みをしっかり伝えていくことが大切だと思っています。」

こんな工夫もしています！

間伐材を使って いろいろな取り組みを

毎年11月から3月にかけて間伐を行っていますが、その間伐材をいろいろ活用しています。公園の階段やベンチに利用したり、しいたけのほだ木として小学校に届ける取り組みも行っています。

事例のまとめ

- 将監沼という地域の宝を地域が一体となって整備し、子育て支援を中心に多くの世代から愛される交流の場所として活用しています。